

新潟市生涯歯科保健計画 (第四次)

計画期間：平成 26 年 4 月から平成 31 年 3 月末まで



計画の趣旨

医療や科学技術などの進歩により、日本人の平均寿命は延び、世界有数の長寿国となりました。しかし、単なる寿命の延長のみでなく、いかに生活の質を高め、心身ともに健康で長生きする（健康寿命を延伸する）か、そして健康格差を縮小させるかが、現在大きな課題となっています。

子どものむし歯が減少している一方で、健康格差を縮小させるまでには至っていません。また成人期は、歯周病が多発するにもかかわらず、その予防対策として重要である歯科健診を受診する人が少ない現状です。更に高齢化が進む中、生涯にわたり自分の口から食べることを続けるために、高齢者や障がい者・要介護者の口腔ケアの重要性が、ますます高まっています。

本計画では、歯科保健推進に関する基本的な方向性を示すことにより、乳幼児から高齢者まで、生涯を通じた歯科口腔保健の推進に取り組み、市民の歯や口の健康を守ること、心身の健康の向上を目指していきます。

計画施策体系

【理念（目標）】

市民一人ひとりが、生涯、健やかで心豊かに生活できるよう、
歯と口の健康の維持・増進を図る

基本方針	基本目標
歯と口の健康づくり	<ul style="list-style-type: none">・ 歯と口についての疾病予防の推進・ 口の機能の育成・維持・向上の推進・ 歯科保健医療を受けることが困難な者に対する歯と口の健康づくりの推進
歯と口の健康づくりを推進するために必要な社会環境の整備	<ul style="list-style-type: none">・ 歯科口腔保健にかかわる多職種連携の推進・ 歯と口の健康づくりについての正しい知識の普及・啓発
歯と口の健康の保持、増進に関する健康格差の縮小	<ul style="list-style-type: none">・ 適切な歯科保健行動の定着の推進

計画の概念図

歯と口の健康づくりを進め、市民一人ひとりが健やかで心豊かに生活できることを目指して、様々な歯科保健施策について取り組んでいきます。

【理念（目標）】

市民一人ひとりが、生涯、健やかで心豊かに生活できるよう、
歯と口の健康の維持・増進を図る

(1) 歯と口の健康づくり

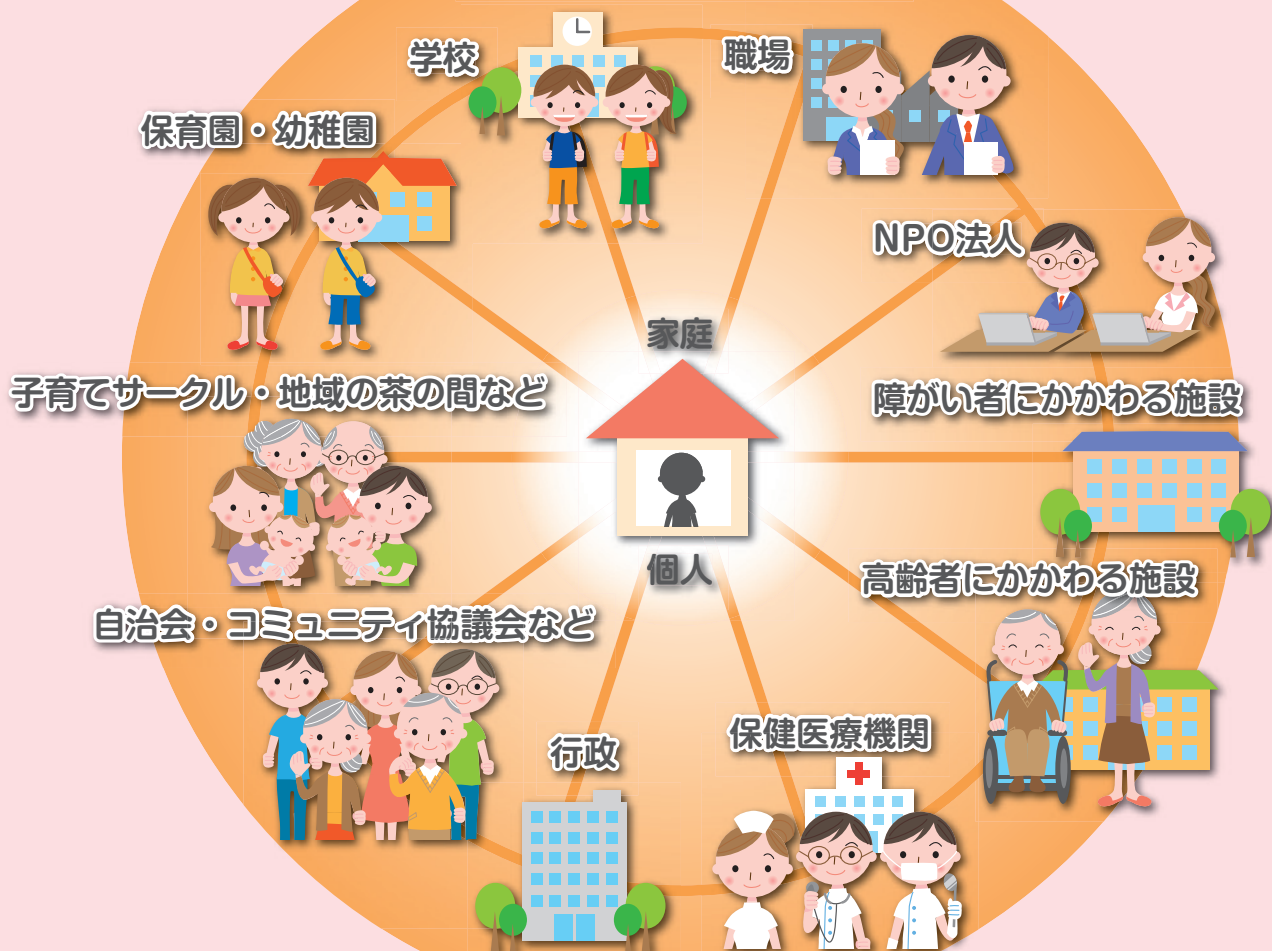
口の機能の育成・維持・向上

歯と口の疾病予防

歯科保健医療を受けることが困難な者に対する歯と口の健康づくりの推進

社会

各ライフステージの生活環境



(2) 歯と口の健康づくりを推進するために必要な社会環境の整備

(3) 歯と口の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小

人生の各段階の歯科保健施策の展開

人生の各段階における、かんで飲み込む機能の発達状況と主な歯科疾患については、下記のとおりです。

人生の各段階 (ライフステージ)	乳幼児期・学齢期		成人期	高齢期
対象者	未就園児	園児 小学生 中学生	勤労者 妊婦等	高齢者
	要介護者			
	障がい児・者			
かんで飲み込む機能	育成	確立	維持・向上	維持・回復
歯科に関する 主な疾患等	乳歯むし歯		永久歯むし歯	
			歯周病	
	摂食嚥下機能障害			

人生の各段階において、新潟市での施策の展開と主な取り組みは、下記のとおりです。



乳幼児期

施策の展開

- 歯と口の保健行動にかかわる正しい知識の普及と定着
むし歯、かんで飲む機能、離乳の進め方、口腔内清掃（仕上げ磨きを含む）などについて
- フッ化物（フッ素）歯面塗布が受けやすい環境づくり
- かかりつけ歯科医の活用の推進

主な取り組み

- 1歳誕生歯科健診事業
- 1歳6か月児健康診査事業（歯科）
- 3歳児健康診査事業（歯科）
- フッ素塗布事業



園児期
学齢期

施策の展開

- 歯と口の保健行動にかかわる正しい知識の普及と定着
むし歯、歯周病、かんで飲む機能、外傷、口腔内清掃、フッ化物（フッ素）洗口などについて
- フッ化物（フッ素）洗口やフッ化物（フッ素）歯面塗布が受けやすい環境づくり
- かかりつけ歯科医の活用の推進
- 歯科保健医療への意識が高い学校保健、地域・社会づくり

主な取り組み

- 巡回歯科保健指導
- フッ化物（フッ素）洗口事業



成人期
高齢期

施策の展開

- 歯と口の保健行動にかかわる正しい知識の普及と定着
歯周病、かんで飲む機能（維持・向上）、口腔内清掃・口腔ケア
- かかりつけ歯科医の活用の推進
- 歯科保健医療への意識が高い職場環境、地域・社会づくり
- 口腔がんに関する情報収集、検討

主な取り組み

- 成人歯科健診事業
- 幸齢ますます元気教室（運動器、口腔機能向上、栄養改善の複合型教室）



障がい者
要介護者

施策の展開

- 歯と口の保健行動にかかわる正しい知識の普及と定着
かんで飲む機能（維持・回復）、口腔ケア、多職種連携
- 在宅口腔ケアについて支援できる歯科医院の増加
- 新潟市口腔保健福祉センターによる支援体制の整備

主な取り組み

- 訪問歯科健診診療事業
- 新潟市口腔保健福祉センター管理運営



※主な取り組みは、平成26年度時点のものです。

新潟市生涯歯科保健計画（第四次）評価指標等一覧

	No.	評価指標	平成24年度	平成30年度 目標	
乳幼児期	1	3歳児でむし歯（乳歯むし歯）がない者の割合 出典：平成24年度3歳児歯科健診事業結果	85.2%	90%以上	
	2	フッ化物（フッ素）塗布を定期的に受けている3歳児の割合 出典：3歳児歯科健診聞き取り調査結果	—	実態把握 増加	
	3	間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ3歳児の割合 出典：平成24年度3歳児歯科健診事業結果	24.5%	20%以下	
園児期・学齢期	4	6歳児（小学校1年生）でむし歯（永久歯むし歯）がない者の割合 出典：平成24年新潟市学校保健統計より算出	98.3%	98.5%	
	5	12歳児（中学校1年生）でむし歯がない者の割合 出典：平成24年新潟市学校保健統計より算出	70.5%	82.1%	
	6	12歳児（中学校1年生）の一人平均むし歯本数 出典：平成24年新潟市学校保健統計	0.71本	0.36本	
	7	12歳児（中学校1年生）で歯肉に所見が認められる者の割合 出典：平成24年新潟市学校保健統計	20.6%	16.6%	
	8	歯間部清掃用具（デンタルフロス等）の使い方を指導している学校数	小学校 中学校	— —	113校（全校） 57校（全校）
	9	フッ化物（フッ素）洗口実施園・学校数 出典：新潟市歯科保健年報	保育園 幼稚園 小学校	167園 24園 34校	向上 34園 93校
成人期・高齢期	10	40歳で進行した歯周炎を有する者の割合 出典：平成24年度新潟市成人歯科健診事業結果	53.2%	50%以下	
	11	【参考値】 6024達成者率 8020達成者率 出典：平成23年県民健康・栄養実態調査結果	71.4% 18.6%	向上	
	12	60歳代における咀嚼良好者の割合	—	80%以上	
	13	過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合 出典：H24年度新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査	40歳代 50歳代	18.4% 25.7%	20%以上 30%以上
	14	歯間部清掃用具を使用している者の割合 出典：H24年度新潟市食育・健康づくり市民アンケート調査	40歳代 50歳代	48.4% 53.2%	55%以上 60%以上
	15	口腔機能の低下のおそれがある者の割合 （二次予防事業対象者のうち「口腔機能の向上」に該当した者の割合） 出典：二次予防事業対象者把握事業結果		55.8%	維持
障がい者・要介護者	16	訪問歯科診療を実施する歯科医院の数 出典：「にいがた医療情報ネット」情報よりカウント	H25年10月末現在 337医療機関	増加	
	17	障がい者診療を実施する歯科医院の数 出典：平成24年度新潟市歯科医師会調査	71医療機関	増加	
	18	新潟市口腔保健福祉センターが、市民や施設関係者等からの相談に対応した件数 出典：平成24年度新潟市口腔保健福祉センター年次報告書	117件	140件	
	19	新潟市口腔保健福祉センターにおいて障がい者や高齢者にかかわる施設に訪問した件数 出典：平成24年度新潟市口腔保健福祉センター年次報告書	81件	90件	

発行：新潟市

編集：新潟市保健衛生部保健所健康増進課（〒950-0914新潟市中央区紫竹山3-3-11）